



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1～P6 令和7年度 日臨技学術奨励賞受賞コメント

P7 臨床検査技師がつながる！ 糖尿病支援ネットワーク、始動！/

「血糖変動を見る タスク・シフト/シェアで広げる糖尿病療養支援」オンデマンド配信申込受付中！

P8 衆議院議員田村憲久氏が主宰する第15回社会保障勉強会にて横地会長が講演/令和7年度 短期海外留学希望者 募集

令和7年度 日臨技学術奨励賞受賞コメント

令和7年度日臨技学術奨励賞の受賞者が発表され、第74回日本医学検査学会にて表彰式が行われました。受賞者の皆様よりいただいたコメントをご紹介します。

優秀論文賞

表彰の前年に発行された会誌「医学検査」に掲載された優れた論文（原著、研究）に対する表彰。また、この優秀論文賞のうち特に画期的な1編を「最優秀論文賞」として表彰する。

最優秀論文賞

『全自動尿中有形成分分析装置UF-5000を利用した
薬剤感受性推測の可能性』

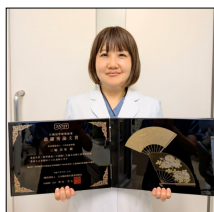
三輪 佑果

社会福祉法人 三井記念病院

この度は、日臨技学術奨励賞 最優秀論文賞の栄誉を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本検討では、近年問題となっているAMRへの取り組みとして、尿沈渣の分析装置で細菌数が測定できることを利用し、尿に直接薬剤感受性ディスクを入れて起こる細菌数の変化から、薬剤感受性の推測を試みました。簡易法ではありますが、通常3日程度かかる薬剤感受性試験を最大2時間まで短縮できるため、外来時に適切な抗菌薬の処方ができるかもしれません。今回の受賞を励みに、これからも更なる検討を行い、臨床に貢献して参る所存です。

最後に、本論文を執筆するにあたりご指導、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



優秀論文賞

『尿蛋白陰性症例における尿沈渣成分中硝子円柱数の
腎機能予後予測因子としての可能性
—CKD重症度分類の追跡調査による解析—』

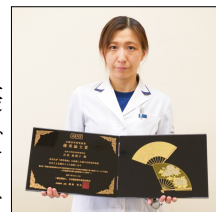
石田 真理子

岐阜大学医学部附属病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀論文賞という栄えある賞をいただき、誠に光栄に存じます。選考委員の先生方、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本研究は、尿沈渣成分である硝子円柱の新たな臨床的意義を見出すことを目的とし、CKD重症度分類の経時的変化を追跡・解析したものです。尿蛋白陰性症例において、尿中硝子円柱数が ≥ 10 /WF認められる症例は将来的な腎機能悪化リスクを抱えていることが予測され、硝子円柱の臨床的意義をさらに高められたと思います。

本論文の執筆にあたり、多くのご指導ご助言を賜りました先生方、ならびにご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も現場に貢献できる臨床検査の可能性を追求してまいります。



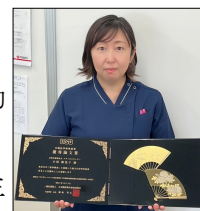
優秀論文賞

『ピロガロールレッド法を原理とする
尿蛋白測定試薬の血清蛋白測定への応用』

小林 麻里子

北埼玉医師会立 メディカルセンター

この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞 優秀論文賞に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生



方、査読を担当いただいた先生方、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

尿蛋白測定に用いられているピロガロールレッド法を、血清総蛋白測定に応用できないか検討した本研究は、大学院在学中に取り組んだテーマを基に、発展させたものです。感度の高さから血清には適さないとされてきましたが、自動分析装置の測定条件を調整することで、安定した測定が可能であることを示しました。また、現在主流のビウレット法とは異なる原理であることから、検査運用の幅を広げる可能性があると考えています。

ご指導くださった松下先生をはじめ、本研究にご助言・ご協力いただいたすべての方々に、心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も臨床に根ざした研究を通じて、医療への貢献に努めてまいります。

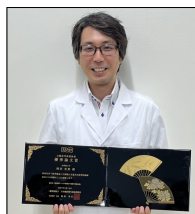
優秀論文賞

『血清除タンパク処理法7種類の性能比較』

岡田 光貴

京都橘大学

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀論文賞に選出いただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



本研究は、古くから様々な提唱されている除蛋白法を実際にやってみることで、それらの除蛋白性能を比較検討したものです。臨床検査は元より、それ以外の分野でも役立つような、有益な結果が得られていると思っております。

ただし、臨床検査の王道とは異なる研究でありますので、本研究を評価いただけたことは大変な驚きであり、同時にとても嬉しく感じております。

そして、この度の受賞は、一緒に研究に取り組んでくれた大学生および大学院生のおかげでもあり、心より感謝しております。引き続き学生と共に、臨床検査にとって有用な研究成果を挙げるべく尽力してまいります。皆様、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

優秀論文賞

『ストーマ装具の皮膚保護剤混入が

尿沈渣判定に及ぼす影響』

富永 美香 山口大学医学部附属病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀論文賞を頂戴し大変光栄に存じます。選考委員の先生方並びに学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



本論文は尿沈渣に出現する混入物の一つである皮膚保護剤について検討したものです。皮膚保護剤には尿沈渣の円柱成分や糞便成分と類似した成分があると報告できたことは、成分を鑑別する際の情報提供となったのであれば幸いです。今後も日常業務での疑問点を追究し、医療に貢献できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

最後に、今回の受賞は共著者の皆様をはじめ、多くの先生方のご指導の賜物です。心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

優秀論文賞

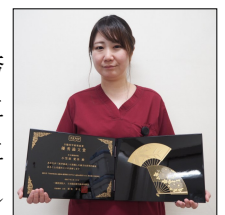
『Clostridioides difficile 感染症における

C. difficile抗原/toxin 検出能の比較検討』

小笠原 愛美

市立函館病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀論文賞に選出いただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方並びに学会関係者の皆様へ厚く御礼を申し上げます。



本論文では、培養法を基準に①イムノクロマト法のC. difficile抗原/toxin検出能の比較、②遺伝子検査法のtoxinB遺伝子検出能の比較について検討を行いました。CDIの診断にイムノクロマト法を用いている施設や、新型コロナウイルスの流行により新しく遺伝子検査装置を導入した施設も多いと思ひます。本論文の検討内容が参考になるようなことがあれば大変うれしく思ひます。

今回の受賞を励みに、今後もより臨床検査の発展に貢献できるよう、日々精進してまいります。この受賞は、検討実施と論文執筆にご協力いただいた皆様のおかげであり、ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

表彰の前年に日本医学検査学会にて発表された優れた演題に対する表彰。また、優秀演題賞のうち特に優秀な1題を「最優秀演題賞」として表彰する。

最優秀演題賞

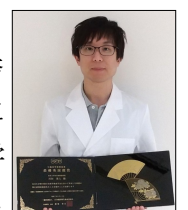
『長期間保管したFFPEブロックの

遺伝子パネル検査への使用の適否に関する検討』

川村 勇人

岐阜大学医学部附属病院

この度は、日臨技学術奨励賞 最優秀演題賞に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



す。

遺伝子関連検査を行う際、作製後3年以内のホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）ブロックの使用が望ましいとされていますが、当院では検体量や腫瘍割合などを考慮して、推奨されているFFPEブロックの作製経過年数を越えたものを使用することがあります。FFPEブロックの核酸品質は経年劣化するとされており、当院で実施してきた取り組みが核酸の品質に対してどの程度結果として現れているかを明らかにするために今回の検討を遂行した次第です。今回の受賞を励みにし、引き続き検査業務に尽力してまいります。

最後に、本検討の遂行にあたり、ご指導ご協力いただいた当院病理部の方々に心より感謝申し上げます。

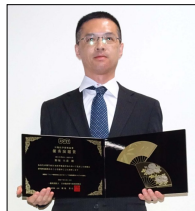
優秀演題賞

『リンパ球増多症における

リンパ系細胞鑑別AIモデルの検討』

野坂 大喜 国立大学法人 弘前大学

この度は、栄えある日臨技学術奨励賞 優秀演題賞に選出いただき、誠に光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに学会関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。



本研究は、臨床検査現場における診断支援の一助となることを目指し、血液像検査におけるリンパ球系細胞鑑別AIモデルの確立に取り組んだものです。AI技術を活用することで、血球形態鑑別における精度向上が期待でき、今後は骨髓血液像解析等にも進展していくものと考えられます。本研究が臨床検査分野におけるAI活用を検討されている先生方の参考になれば大変うれしく思います。

今回の受賞は、ひとえに弘前大学医学部附属病院関係者の皆様のお力添えの賜物であり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

優秀演題賞

『～技師が辞めない職場作り～』

吉田 治代

医療法人社団紘和会 平和台病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞に選出いただき大変光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



私事になりますが、定年まで管理職最後の5年間スタッフが検査技師という職業を選んでよかったと思えるような職場を作ろうと検査室マネジメントに取り組んでまいりました。そして、演題発表という形にして自身の大きな区切りにしようと思いました。それがこ

のような賞をいただくことになり大変ありがたく思います。これもひとえにマネジメントやリーダーシップについて基礎の段階からご指導ご助言を下さいました先生方と根気強く私にお付き合いしてくれた検査室の仲間たちに恵まれたからこそいただけたものです。

医療業界そして社会全体が大きく変わろうとしているなかで、若い検査技師が専門性を高めていくのと同じように自分の仕事や職場や人生を豊かにするセルフマネジメントが継続して学べる機会が増えればと願います。

最後に、ご指導いただいた先生方と素晴らしい仲間たちに心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

『多彩性がなく小球状を呈する

糸球体型赤血球出現時の検査所見の傾向について』

服部 亮輔

日本大学病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞に選定していただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方、学会関係者の皆様に御礼申し上げます。



尿沈渣で認められる「多彩性がなく小球状を呈する糸球体型赤血球」はJCCLS GP1-P4に記載されていますが、臨床的意義など不明な部分が多い成分です。本演題は、小球状の糸球体型赤血球と、それ以外の糸球体型赤血球について腎機能、尿定性検査、尿沈渣検査の比較検討した内容になります。まだ検討できる内容であると思いますので、引き続きデータの集計、解析を続けていきたいと思っています。そして、一般検査分野の発展に少しでも貢献できればと思っています。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

優秀演題賞

『FilmArray血液培養パネル2を用いた

遺伝子検査の効果と検査体制の構築』

千葉 美紀子

東北大学病院

この度は、栄えある賞を賜り、誠にありがとうございます。今回の受賞は、検査室のメンバーをはじめ、ASTメンバーなど多くの方々のご支援とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。



微生物検査における遺伝子検査は、コロナ禍を契機に急速に普及し、技術も大きく発展しました。一方で、保険点数が算定されない検査や、算定されてはいるものの高額な検査であるため、検査適応を慎重に判断する必要もあります。こうした状況下で、私たち検

査技師の専門性が一層求められていると感じております。FilmArrayの使用についても、施設の規模や資源、感染症患者へのフォロー体制によって、最適な使用フローは施設ごとに異なると考えております。その中で、当院での検証を評価いただけたことは、大変光栄に存じます。私たちの取り組みが一例となり、他職種との議論を通じて、それぞれの施設に適したフロー構築の参考にしていただければ幸いです。

今後も、より良い検査体制を目指し、努力を重ねて参ります。本当にありがとうございました。

優秀演題賞

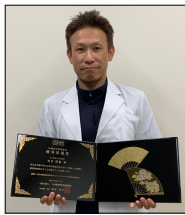
『当院の細胞治療に関わる

タスク・シフトシェアでの新たな取り組み』

南里 隆憲

名古屋市立大学病院

この度は、栄誉ある賞をいただき誠に光栄に存じます。細胞治療に関する業務において、タスク・シフトシェアを通じた新たな取り組みを実現するため、多職種と連携しながら環境整備と教育体制の構築を進めてまいりました。特に、ISO15189を活用した品質管理体制の下で新規業務を展開し、チーム医療の一員として臨床検査技師の業務拡大に取り組んだことは、高い専門性が認識され、信頼を得ることにつながった点で大きな意義があったと感じております。



今後もこの経験を活かし、技術の向上と次世代技師の育成、多職種と協力のもと、安全かつ効率的な医療提供体制の構築に貢献してまいります。

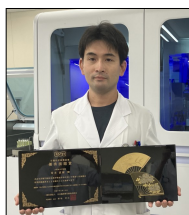
優秀演題賞

『LBxで採取したcfTNAの保存温度がNGSの反応性に与える影響についての検討』

宮本 直樹

久留米大学病院

この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞 優秀演題賞に選んでいただき、大変光栄に存じます。選考に関わってくださった皆様ならびに関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



本研究では、リキッドバイオプシー（LBx）におけるcfDNA・RNAの保存条件が、NGS測定にどのような影響を与えるかについて検討いたしました。LBxは、今後のがんゲノム医療を支える重要な技術であり、臨床検査技師の関与がますます求められる分野であると感じております。そうした領域に少しでも貢献できるのであれば、大変うれしく思います。今回の受賞を励みに、今後も遺伝子検査やがんゲノム医療に役立つ研究に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、日頃よりご指導・ご支援いただいている当院検査室の皆様に、心より感謝申し上げます。

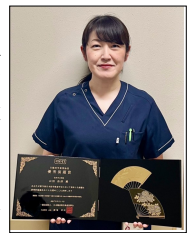
優秀演題賞

『左房拡大を評価する新たな指標（LAD-index）の臨床的有用性の検討』

山田 奈津

金沢市立病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞という栄誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



本演題では、心エコー図検査における左房拡大評価の標準化を目的として考案した、新たな指標（LAD index）の臨床的有用性について検討し、報告いたしました。LAD indexは、性別や体格に影響されず左房拡大の評価が可能であり、さらに、心房細動のスクリーニング指標としての有用性も示唆されました。

今回の受賞を励みに、臨床検査技師として医学検査分野の発展に貢献できるよう、今後も学びの場を大切に、豊かな学識を養ってまいります。また、日々の業務で生じた疑問を見逃さず、今後の研究活動へ繋げていきたいと考えております。

最後に、本研究にご指導、ご協力いただいた皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

『当院におけるHCV抗体陽性患者に対する院内連携の取り組み』

高野 紗良

地方独立行政法人

総合病院国保旭中央病院

この度、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞を受賞できたこと大変嬉しく光栄に存じます。選考委員の皆様を始め、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



本演題は2020年から開始したHCV抗体陽性者に対する院内連携の取り組みの効果と課題点について検証し報告しました。

診療介入率は対策前に比べ有意な上昇が認められましたが、より効果を得るためには患者さんへ適切な結果説明がなされ、また検査の重要性を理解していただくことが重要であると考えます。今後も継続的に活動に取り組み、患者さんの早期発見・早期治療に携わっていけるよう、日々精進してまいります。

最後に、今回の受賞は職場のスタッフ・先生方のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

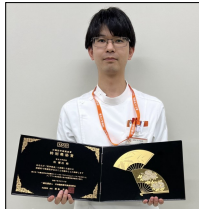
満35歳以下の正会員による学術成果を対象とし、表彰の前年に日本医学検査学会に発表された演題若しくは、会誌「医学検査」に掲載された論文で、独創的かつ将来性があると認められたものに対する表彰。

特別奨励賞

『自動血球分析装置XNシリーズの「PLT-Clumps?」フラグを利用したフィブリン析出検体と血小板凝集検体鑑別の検討』

牧 優治

東北大学病院



この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞にご選出いただき誠にありがとうございます。選考委員の先生方並びに学会関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

採血不良やEDTA依存性偽性血小板減少症(EDP)は末梢血算定検査を行っているとき必ず遭遇する測定誤差要因です。本研究では自動分析装置の血小板凝集検出機能の測定モードによる差に注目し、採血不良検体とEDP検体に対する性能特性を検証しました。この研究結果を用いて当院の血小板偽低値の確認フローを血小板凝集検出機能活用したものに変更し、ルーチン業務の効率化と夜間休日帯の偽低値の見逃し防止につなげることができました。本論文の内容が少しでも各施設様の業務改善に繋がりましたら幸いです。

今回の受賞を励みにし、今後も臨床検査の発展に貢献できるよう一層精進してまいります。

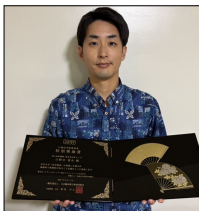
最後に、本研究の遂行にあたりご指導、ご協力していただいた皆様に心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

『トランスサイレチン型心アミロイドーシスにおける神経エコー検査の有用性の検討』

日野出 勇次

国立病院機構 鹿児島医療センター



この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞にご選出いただき、誠に光栄に存じます。選考委員の皆様ならびに関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

本研究は、心エコーで心アミロイドーシスの鑑別に悩む症例において、神経エコーによる正中神経の評価が有用ではないかとの着想から始まりました。一見異なる領域の検査ですが、本研究を通じて両者が関連し得る可能性が示されたことで、疾患に対する深い理解の重要性が改めて示唆されました。また、多くの方に

とって馴染みの薄い神経エコー検査でも、心エコーと組み合わせることで新たな可能性を提示できたと考えます。今後はさらに研究を継続し、診断一致率や感度・特異度の評価が可能となるよう努めてまいります。

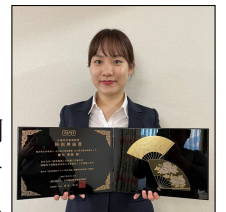
末筆ながら、本研究をご指導・ご支援くださったすべての関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も臨床検査のさらなる発展に貢献できるよう精進してまいります。

特別奨励賞

『相対的酸化ストレス度の亢進と動脈硬化性疾患との関連』

鎌田 理緒

地方独立行政法人山口県立病院機構
山口県立総合医療センター



この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞という名誉ある賞に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の皆様ならびに学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

我々の研究室では血中酸化ストレス値と抗酸化力値を同時に測定できる検査システムを確立し、心血管系項目である収縮期血圧、拡張期血圧、内頸動脈Intima Media Thickness (IMT)との関連性を統計学的に解析し検討しました。

その結果、生体の相対的な酸化ストレス状態を評価できる血中酸化ストレス値と抗酸化力値の測定は心血管系のバイオマーカー検査として有用であると考えられました。心血管疾患発症の前段階である血管内皮機能障害および動脈硬化を早期に発見し、予防対策や早期治療をおこなうことで心血管疾患の発症抑制に繋がることが期待されます。

最後に、本研究をご指導・ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

『Real-time PCRを用いたHTLV-1遺伝子定量法の確立』

岩上 恵梨

東京女子医科大学病院



この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞に選出していただき、大変光栄に存じます。また選考委員の皆様をはじめ、学会関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

本論文では、生体腎移植においてヒトT細胞白血病ウイルスI型(human T-cell leukemia virus type 1;HTLV-1)のラインプロット法(line blotting as-

say:LIA)で判定保留となった場合を想定し、遺伝子増幅法(real-time polymerase chain reaction;real-time PCR)を用いたHTLV-1遺伝子定量法の確立を目指し検討を行いました。

HTLV-1の配列より作成した合成オリゴヌクレオチド DNA fragmentsを使用することで、安定したHTLV-1の定量化が可能となり、生体腎移植を目的とするレシピエントおよびドナーの感染リスクを評価する上で有用な迅速診断法になればと考えております。今回の受賞を励みに、今後も臨床検査の発展に貢献できるよう、日々精進してまいります。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

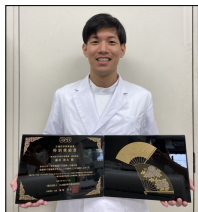
特別奨励賞

『PAM (Periodic Acid-Methenamine silver) 染色の再現性向上のための検討 —銀反応経時的変化と尿細管刷子縁の呈色を利用して—』

藤田 裕太

順天堂大学医学部附属 浦安病院

この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞を授与していただき、大変うれしく、光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに学会関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



PAM染色は、銀反応を用いた染色法であり、免疫染色や遺伝子検査による診断が増えている現在においても、腎病理診断には欠かすことのできない染色法のひとつだと思います。本論文は、PAM染色の糸球体基底膜を適正なタイミングで染色するために、PAM切片上の経時的色調変化と尿細管刷子縁の呈色を利用して銀反応の反応終点を導くというものであり、PAM染色を始められる方々に一助として用いていただければ幸いです。まだまだ改善点は多く、さらなる研究を進めていきたいと思っています。

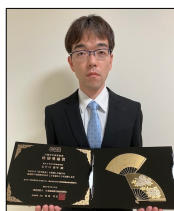
最後に、本研究の学会発表から論文執筆まで、ご多忙の中、ご指導ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

『震災被災者と比較した一般住民における 深部静脈血栓症検出率』

木戸口 周平 福井大学医学部附属病院

この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



本論文は、災害関連疾患としての深部静脈血栓症について、その背景因子を被災者と非被災者に分けて比較検討しました。また、被災地における深部静脈血栓症の検出率は非被災者の4倍以上であることが示されました。今後の災害対策や避難所運営における健康管理の一助となりましたら幸いです。

最後に、本研究は、熊本県阿蘇市、南阿蘇村、福井県敦賀市のご協力と鹿児島県、熊本県、石川県、富山県、福井県の多くの医療機関の方々（医師、保健師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師）にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

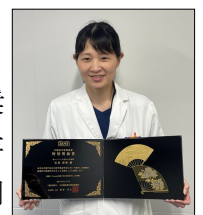
特別奨励賞

『Candida属菌の判定時間変更による影響』

松原 智晴

聖マリアンナ医科大学病院

この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



今回の発表では、現在、日本国内で広く使用されている酵母の薬剤感受性検査キットの判定時間を最新のCLSIの規定に基づき、48時間から24時間に変更した場合の影響について検討いたしました。当院で5年間に薬剤感受性検査を行った250株を対象にMICの変化を比較し、24時間での判定に変更した場合でも、測定値やSIRの判定に大きな差異は認められませんでした。判定時間の短縮によって、より迅速な臨床報告が可能となり、早期に適切な抗真菌薬の選択が行える可能性を示唆しています。

最後に、本演題の発表機会を賜り、ご指導・ご協力をいただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

コメントをお寄せいただいた受賞者の皆様、ありがとうございました。

会員の皆様、会誌『医学検査』への投稿、日本医学検査学会での演題発表を是非、ご検討ください。



臨床検査技師がつながる！ 糖尿病支援ネットワーク、始動！

糖尿病は長期にわたって患者さんが生活と向き合う疾患です。治療の継続には多職種の連携が不可欠であり、その中で私たち臨床検査技師にも新たな役割が期待されています。

これまで私たちは、検査室で正確なデータを提供し診療を支えてきました。しかし糖尿病支援の現場ではそれだけにとどまりません。検査結果をどう読み解き、どう患者さんに伝えるか。その“つなぐ力”が、治療効果に直結する大切な鍵となっています。

さらに近年、タスク・シフトの流れの中で持続グルコースモニタリング（CGM）にも関わられるようになり、臨床検査技師がデータ解析やレポート作成、結果の説明などを担う場面が増えてきました。私たちの専門性が生かされる場面は着実に増えてきています。数字に強い私たちだからこそ、患者さんに安心と納得を届けられる瞬間があります。「もっと患者さんと関わりたい。」「チームの中で自分の力を発揮したい。」そんな思いを持つ方は、ぜひ一步を踏み出してみてください。

そして今、全国の仲間とつながる新たなネットワークを立ち上げました。糖尿病支援に取り組み始めたばかりの方も、経験豊富な方も、共に学び合い支え合える場を目指しています。「他の施設の取り組みを知りたい。」「やってみたいけど不安。」そんな方こそ大歓迎！掲載のポスターにあるQRコードから登録できます。

全国の仲間と一緒に糖尿病支援の力を高めていきましょう！



第68回日本糖尿病学会年次集会にて
CDEJ認定機構理事長 宇都宮一典先生(前列左から3番目)と
DM-EAM@MTのメンバー



DM-TEAM 代表
事務局

倉敷中央病院リバーサイド 中川 裕美
静岡県立総合病院 村越 大輝

「血糖変動を見る タスク・シフト/シェアで拡げる糖尿病療養支援」オンデマンド配信申込受付中！

臨床検査技師が糖尿病管理における検査結果の活用法や患者支援の実践的な手法を習得するために、タスク・シフトの概念に基づいて医師や看護師など多職種と連携する方法や、CGMを含めた実践的な支援内容を学ぶ研修会をオンデマンド形式で開催します。事前参加申込を受付中です。是非、ご参加ください。

会 期：令和7年7月1日（火）から10月31日（金）
申 込 期 間：令和7年6月1日（日）から10月30日（木）
受 講 料：1,000円（クレジット決済のみ）
点 数 付 与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点
申込・受講方法：会員専用ページより

①事前参加申込み → ②事前参加申込済一覧から受講

参加申請
Application for Participation

- ① 事前参加申込み
- ② 事前参加申込済一覧
- 学会セミナー申込み
- 請求書/領収書
- 自己申告による参加登録

衆議院議員田村憲久氏が主宰する第15回社会保障勉強会にて横地会長が講演

5月27日（火）午前8時からホテルニューオータニで衆議院議員田村憲久先生が主催の第15回社会保障勉強会が開催された。多くの医師・歯科医師・薬剤師等の医療関係職種400名ほどが参加する勉強会ではあるが、日臨技代表理事・執行理事および日技連の常任執行委員をはじめとして、それぞれの役員10名が出席した。

この勉強会では、第1部の講演会として日臨技横地日臨技会長として「働き方改革～臨床検査DXをどう進めるか～」をテーマに講演した。また、第2部では、田村憲久議員、日本医師会 松本吉郎会長と3者で同テーマでの討論会を開催した。討論会の内容は、①医療情勢を踏まえた臨床検査技師の働き方改革②医師、看護師が信頼してタスクシェアできる臨床検査技師の育成をポイントとして進め、物価高に対応した診療報酬改定、医療人材不足による医療の質の地域格差、高齢化による過疎地域の医療確保に向けた体制づくり等で展開された。特に厳しい医療機関の経営状況から、いかに臨床検査DXを活用して、経営改善に繋げられるのかも含めて積極的なディスカッションがなされた。

この田村議員が主催する社会保障勉強会は年間で3回ほど開催されており、次回は日本理学療法士会が幹事団体として開催していく予定である。

（専務理事 深澤 恵治）



令和7年度 短期海外留学希望者 募集

2015年よりASCP（American Society for Clinical Pathology）の協力を得て、Loyola University Medical Center（米国・シカゴ）に短期留学を促進支援する事業を実施してきました。昨年度に引き続き、本年度も留学希望者最大2名を募集します。留学時期は2025年8～11月の間で1週間（移動日を含む。実質5日間）です。

【応募条件】

- ①21歳以上 ②英語でのコミュニケーション力 ③ASCPi資格保持者を優先
 - ④可能な範囲で日臨技の国際学会や国際事業への参加および広報等について協力をする事
- 是非、ご応募ください。（募集締め切り：2025年7月25日まで）



※詳しい応募条件、申込方法は下記URLまたは、右側のQRコードからご確認ください。

https://www.jamt.or.jp/news/2025/news_005632.html

（編集後記）今年は沖縄県よりも早く九州南部が梅雨入りする異例の状況となっています。私は天気予報の雨雲レーダーをよく見ますが、結構予測が合っていると思うことがあります。正確なデータの蓄積があつての予測なのでしょうね。日々の研究検討を積み重ね・正確なデータの蓄積があつて、そしてその成果を報告され、優秀論文賞、優秀演題賞、特別奨励賞を受賞された皆様、誠にありがとうございます。皆様の更なるご活躍を祈念いたします。

（花牟禮）